

令和8年度
近畿大学大学院 総合文化研究科 入学試験
【一般】

文化・社会学専攻
専門科目試験問題

【社会学コース】

試験開始の合図があるまでに、次の注意事項をお読みください。

- 1) 解答ははじめの合図があるまで、問題冊子を開かないでください。
- 2) 机のうえには、受験票、HBの黒鉛筆又はシャープペンシル、消しゴム、鉛筆削り(電動式は除く)、時計(時計機能だけのもの)、眼鏡以外のものは置かないでください。
- 3) 辞書については、持ち込を許可されている専攻・コースのみ使用可能です。(電子辞書は除く)
- 4) 試験開始後、解答用紙にコース名・受験番号・氏名を記入してください。
- 5) 特に監督者から指示がなければ日本語で記述してください。
- 6) 試験開始後に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁等に気が付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 7) 試験終了後、問題冊子はお持ち帰りください。

令和8年2月21日実施

問題 以下の問いに答えなさい。なお、解答内容はなるべく具体的に記述してください。また、解答の際に参考にした事柄の情報源となる論者の名前や文献の書誌情報は、できるだけ詳細に記述してください。

問 1. あなたが大学院で研究しようと考えていることの背景となる情報を整理した上で、現時点での研究目的を説明してください。

問 2. 研究目的を達成するために用いる方法はどのようなものを説明してください。また、その方法を用いる妥当性と限界を説明してください。

問 3. あなたが大学院で研究しようと考えていることに関連する社会学の理論や概念等の知見を整理してください。その上で、あなたの研究成果の学術的貢献がどのような点にあるかを述べてください。

問 4. 大学院で学ぼうと考えているのはどのようなことか、あなたが大学院で指導を受けようと考えている教員の研究成果や授業内容を挙げながら、具体的に説明してください。

【出題意図】

問 1 は、受験生の大学院進学後に予定している研究の背景と目的を問うものである。「背景となる情報」には、先行研究の整理や社会背景の整理などが含まれる。また、研究目的をはっきりと明示し、諸背景との接続が論理的に説明できるかを試験するものである。

問 2 は、受験生が大学院進学後に予定している研究の方法を問うものである。研究の方法と手続き、スケジュールなどをどれだけ具体的に説明できるか、そして、研究目的を達成するためにその方法を採用する理由は何か、その方法を用いる際の問題や課題点を把握できているかを試験するものである。

問 3 は、受験生が大学院進学後に実施予定の研究にかかわる社会学の理論や概念をどれだけ学習できているかを問うものである。問 1 の研究背景と重なる部分もあるが、こちらはより幅広く社会学的知見への貢献とその背景を問うた設問である。

問 4 は、大学院に入学して何をどのように身に付けようと考えているかを問うものである。特に、在籍する教員の専門や授業内容について事前に調べられているか、そうした情報と自身の研究計画の関連性をどの程度詳細に書けるかを試験するものである。

なお、全体的に、採点に当たっては記述の具体度や情報源の正確性、論理展開、設問読解の妥当性を重視した。

以上